おおきな手

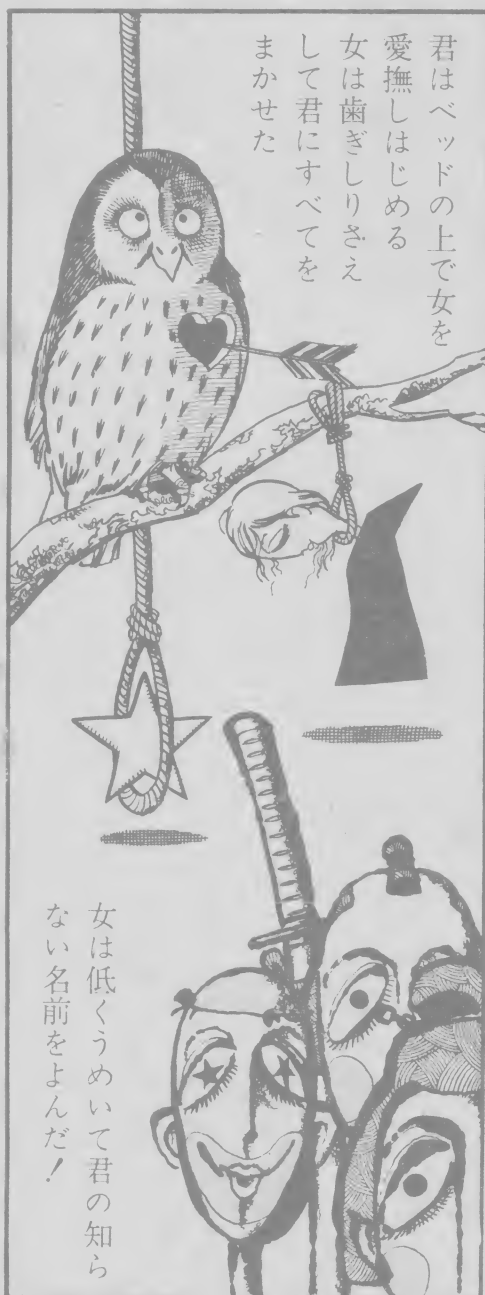
向後つぐお

君が監獄の中で
知ったものと言えば
メシの美味さと
男の身体の中の
安全そうな
ニオイ！
君はけっこう満足げな
微笑さえしている
しかし君はその微笑を
かくすように君の頭は
深くたれていた
それ所か君は
その男を呪っているかのような
風をさえして見せる

おぼえて
いるかい？
君がはじめて
その女を見
たのは――。
まだ晴れやら
ない秋の
うすら寒い
朝だったと記憶
する
君はその女の名前も
聞かず朝食のテーブル
にまねいた
朝食がすむと今度は
バスルームにつれ込んだ――女の肌は黒かった
君は洗えば白い肌があらわれると信じたがそれどころかバスルーム迄黒くなったではないか！

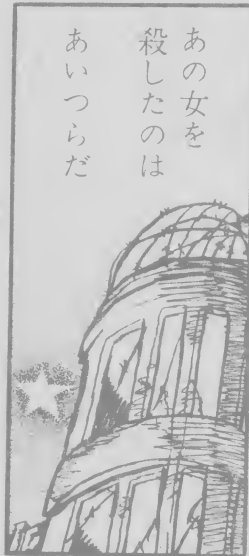
しかし君は
それでも
良かった
女が君を
愛していて
さえくれれば
それでも
良かった
君が女を
愛してさえ
いるなら――

君はそう思ったにちがいない
たとえうそでも――

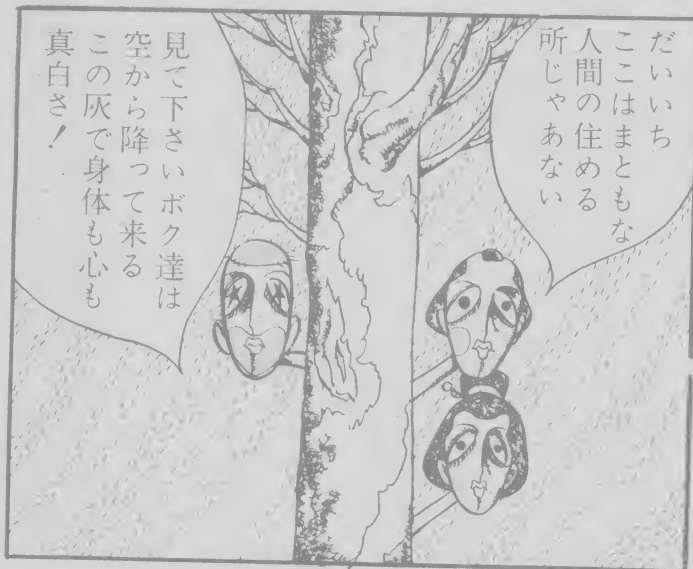
チンドン屋は何も
知っちゃあいる
もんか
そこに白い小さな家が
ある事も知っちゃいない

君はベッドの上で女を
愛撫しはじめる
女は歯ぎしりさえ
して君にすべてを
まかせた
女は低くうめいて君の知ら
ない名前をよんだ！

君は女を
殺そうとした
しかしその
瞬間

女の額めがけて
青白い光が
放たれた
女はそのまま
ぶったおれて
死んだ――。

あの女を
殺したのは
あいつらだ!

あの女を
殺したのは
あいつらだ

君は何の根拠もなく
女を殺したのは
彼等チンドン屋
だと信じた…
唇で国家の繁栄を唄い
ハラの中で引き金を引く
機会をうかがいつつ
君はチンドン屋に近づいた。

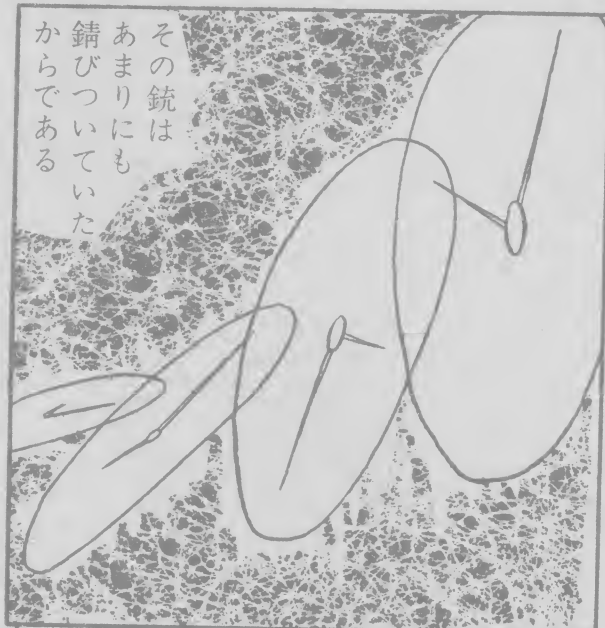
あの女を殺したのはあいつらだ
あの女を殺したのはあいつらだ
あの女を殺したのはあいつらだ
あの女を殺したのはあいつらだ

君は自分で女を殺そうとした事などすっかりわすれてチンドン屋を追いつめた！

君は悪い夢でも見たんです
ボク達は何も知らない
ほんとうですとも

だいいちここはまともな人間の住める所じゃあない
見て下さいボク達は空から降って来るこの灰で身体も心も真白さ！

今──。
君は人間で有りながら
人間を憎み人間の
話しを聞かず
人間に銃口を
向けて大きく
あくびさえした…

君はその銃口から
何が飛び出るか
知っているはずだ
しかし君はその引金を
引かずにはいられなかった
そうさ君はあの女の
かたきをうたなけりゃ
ならないのだから！

しかしチンドン屋は
君の銃を見て
笑っている

その銃は
あまりにも
錆びついていた
からである

君はその強い
ショックで宙を
2・3回踊るように
舞いあお向けに
ぶったおれた

そして君は
それ以来その
巨大な罪を黒い
マントにかくした……
君は安全な場所を
見つけたのだ

大きな男の胸の
中に君はもぐり
こむ
もはや君は
君自身の安全を
保証されている
そうさ
少しの不満に
目をつむれば
君はそこの
王様だ
僕はまちがってないよ
ほんとだよ
なにが国家の
繁栄だ
進歩と調和が
笑わせる！
安っぽい同情など
欲しくない

君は平和にすごした
かったにちがいない……
あの灰の積る白い
家の中で
銃をひとつ
もって……

しかし……
平和の白い
鳩は今一度
あいつ等の手に
よってむしばまれ
ようとしている